

令和4年度 事業計画書

公益財団法人 大阪府文化財センター

令和4年度 事業計画書

I. 埋蔵文化財調査事業

1. 調査事業

文化財の保存、活用を目的として、埋蔵文化財の発掘調査及び出土遺物の整理等を実施する。

①西日本高速道路株式会社 関西支社 新名神大阪西事務所が施行する高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線（新名神高速道路）建設事業地内の調査

梶原古墳群〔高槻市〕	(発掘調査)	540 m ²
梶原南遺跡(4)〔高槻市〕	(発掘調査)	1,600 m ²
金龍寺旧境内跡(1)〔高槻市〕	(遺物整理)	
金龍寺旧境内跡(2)〔高槻市〕	(遺物整理)	
梶原古墳群〔高槻市〕	(遺物整理)	
梶原南遺跡(3)〔高槻市〕	(精算事務のみ)	
梶原南遺跡(4)〔高槻市〕	(遺物整理)	

②大阪府都市整備部 枚方土木事務所が施行する東部大阪都市計画都市高速鉄道 京阪電気鉄道京阪本線（寝屋川市・枚方市）連続立体交差事業地内の調査

伊加賀遺跡・伊加賀古墳群〔枚方市〕	(報告書印刷)	
梨木元遺跡〔寝屋川市〕	(発掘調査)	340 m ²
梨木元遺跡〔寝屋川市〕	(遺物整理)	

③大阪府都市整備部 八尾土木事務所が施行する寝屋川水系改良事業（一級河川恩智川法善寺多目的遊水地）地内の調査

大県郡条里遺跡(9)〔柏原市〕	(発掘調査・遺物整理)	2,550 m ²
大県郡条里遺跡(10)〔柏原市〕	(発掘調査・遺物整理)	3,460 m ²
大県郡条里遺跡(11)〔柏原市〕	(発掘調査)	1,300 m ²

④大阪府都市整備部 モノレール建設事務所が施行する大阪モノレール延伸事業地内の調査

西岩田遺跡〔東大阪市〕	(発掘調査)	1,100 m ²
-------------	--------	----------------------

⑤大阪モノレール株式会社が施行する（仮称）瓜生堂車両基地整備事業地内の調査

西岩田遺跡〔東大阪市〕	(発掘調査)	2,320 m ²
西岩田遺跡〔東大阪市〕	(遺物整理)	

⑥西日本旅客鉄道株式会社 大阪工事事務所が施行する吹田総合車両所近代化改良工事他事業地内の調査

目俵遺跡・吹田操車場遺跡〔吹田市〕 (発掘調査) 2,550 m²

目俵遺跡・吹田操車場遺跡〔吹田市〕 (遺物整理)

⑦門真市が施行する門真市幸福東土地区画整理事業地内の調査

普賢寺遺跡〔門真市〕 (報告書印刷)

⑧民間事業者が業務代行者として施行するJR島本駅西土地区画整理事業地内の調査

尾山遺跡〔島本町〕 (報告書印刷)

⑨学校法人 追手門学院が施行する追手門学院総持寺キャンパス開発事業地内の調査

太田遺跡・太田廃寺跡〔茨木市〕 (遺物整理)

⑩学校法人 立命館が施行する立命館大学O I C新展開施設整備事業地内の調査

中条小学校遺跡・松ヶ本南遺跡〔茨木市〕 (発掘調査・遺物整理) 900 m²

⑪民間事業者が業務代行者として施行する松原市三宅土地区画整理事業地内の調査

三宅西遺跡〔松原市〕 (発掘調査) 4,000 m²

⑫民間事業者が業務代行者として施行する堺市美原区黒山東事業地内の調査

黒山遺跡・太井遺跡〔堺市美原区〕 (報告書印刷)

⑬民間事業者が業務代行者として施行する河内長野市上原・高向土地区画整理事業地内の調査

高向遺跡〔河内長野市〕 (発掘調査) 2,600 m²

総事業件数 25件

総調査予定面積 23,260 m²

(平成29年度 総事業件数 24件 調査実施面積 30,836 m²)

(平成30年度 総事業件数 21件 調査実施面積 59,103 m²)

(令和元年度 総事業件数 27件 調査実施面積 54,931 m²)

(令和2年度 総事業件数 24件 調査実施面積 45,672 m²)

(令和3年度 総事業件数 26件 調査予定面積 29,230 m²)

II. 文化財資料活用事業

1. 文化財講演会事業

(1) 文化財講演会

一般府民を対象とした講演会を開催する。講演会に際しては、諸団体や近鉄文化サロン等の民間企業等との連携によって効果的、効率的に事業を実施する。

(2) 連携講演会・講座

公民館や学校法人等との依頼や連携による講演・講座等を実施する。

2. 現地説明会・現地公開事業

埋蔵文化財の発掘調査成果を報道機関等に資料提供し、地元住民をはじめ広く一般府民に公開し文化財保護の啓発を行う。また、現地説明会・現地公開では、地元小学校生徒の見学を促進するほか、遺物に触れるコーナーを設けるなど、子ども達にも発掘調査や歴史に興味をもつような工夫を行う。インターネットによる動画配信も実施する。

3. 文化財体験学習事業

(1) 体験学習を通じての学校教育支援

学校が実施する職業体験学習等を受入れ、学校との連携を強め、教育の発展に寄与する共に文化財に対する理解を促進する。

(2) 発掘調査現場等の見学受け入れ

発掘調査や整理作業の現場を見学したいとの一般府民の要望がある場合、日時・場所を定めて現場等への見学を受入れ、埋蔵文化財調査の理解を得る。

(3) 子ども向け体験学習

各博物館を通じて、商業施設等において、子ども向けのワークショップを実施し、文化財に対する理解を促進する。

4. 文化財展示会事業

(1) スポット展示

発掘調査の最新成果等を地元市町村等の協力を得て、各博物館で適時展示、公開する。また、展示内容に即した講演会なども企画する。講演会等の機会を利用して、実物資料を間近に見ていただく機会を設ける。

5. 文化財広報事業

(1) 事業年報の編集発行

(2) ホームページによる情報提供

インターネットを通じて、当センターの発掘・調査、イベント、出版等に関する情報をいち早く一般に公開し、文化財の普及を図る。

(4) 当法人設立50周年記念事業

昭和47年設立以来、令和4年度をもって設立50周年にあたり、また、平成14年度の大阪府博物館協会統合20周年にあたる。記念誌の作成及び講演会を実施し、当法人が文化財保護行政に寄与した役割を発信し、蓄積した情報を公開活用する機会とする。

6. 文化財資料収集整理事業

(1) 文献および文化財情報の収集・整理

一般府民の利用やセンター職員の発掘調査・整理、研究を進める上で有効な、文化財に関する報告書等の文献資料を収集・整理する。

(2) 文化財情報のデジタル化

これまで報告書に掲載された写真（主にカラー図版）フィルムの長期保存を図るため、スキャニングして画像データ化し、デジタルデータとして活用する。また、奈良文化財研究所が実施している「全国遺跡報告総覧」へ協力し、報告書データベースを提供する。

7. 文化財資料提供事業

(1) 発掘資料の出土品、写真、映画等の貸出

当センターが保管・保有する発掘資料（出土品、写真、映画等）を博物館及び出版社等関係機関からの要望に応じて貸出しを行う。大学生や研究者等の要望に応じて資料調査を受け入れる。

(2) 報告書等の配付

他の関係団体等に報告書等出版物を配付する。

(3) 図書の頒布

博物館図録等を来館者サービスの一環として、一般府民に頒布する。

8. 文化財研究事業

「大阪文化財研究」を刊行し、職員の研究成果を発信する。近畿ブロック埋蔵文化財研修会等に参加し、情報収集を行う。

Ⅲ. 大阪府立弥生文化博物館事業

1. 展示公開事業

「日本文化の源流である弥生時代を通じて、日本文化を理解する」をメインテーマに、博物館法並びに大阪府博物館条例に基づき、展示公開を行う。

(1) 常設展示

「目で見る弥生文化」の導入ゾーン、「米つくりの始まり」「新しい技術の誕生」「ムラ・戦い・クニ」「弥生人」「交流」「死とまつり」のテーマゾーン、卑弥呼像を中心としたシンボルゾーンで、弥生文化をビジュアルに展示する。

(2) 特別展・企画展

新規の来館者の裾野を広げるとともに、来館者の歴史文化に対する知的満足度をさらに高めるため、特別展・企画展を下記のとおり開催する。

①春季企画展「とんぼ玉100人展 ー炎から生まれる小さないのちー」

ア. 開催趣旨

弥生時代、日本列島内にはじめてガラスが伝わった。そのまばゆい光は、古代からあまたの人びとの心を魅了し、現在にまで伝わっている。今回の展示では、ガラス工芸のなかでも地元根付き、ひときわひかり輝くとんぼ玉に焦点をあて、そのみずしい感性と、繊細かつ確かな技術によって生みだされた珠玉の名品を一堂に会し展覧に供する。

イ. 開催期間 令和4年4月16日(土)～6月19日(日)【56日間】〔予定〕

②夏季特別展「(仮)南関東の弥生文化」

ア. 開催趣旨

農耕・集落・交流を中心とした観点から、とてもユニークな特色を持つ南関東地域の弥生文化を紹介する。これまで西日本をベースとして構築されてきた弥生時代のイメージに対し、近年、関東をフィールドとする研究者たちの中から新たな問題提起がなされはじめ、話題となることが多々あった。今回の展示では、その主張を掘り下げ、新たな視点から弥生文化を取り上げる。

イ. 開催期間 令和4年7月16日(土)～9月19日(月・祝)【57日間】〔予定〕

(3) スポット展示

①スポット展示

大阪府内における発掘調査最新成果の展示公開を市町村教育委員会の協力を得て適時実施する。

②弥生プラザ

弥生時代遺跡の速報展示コーナー「弥生プラザ」の展示替えを大阪府内の市町村教育委員会の協力を得て実施する。リーフレットを作成、配布する。

2. 講演会事業

(1) 特別展・企画展等関連の講演会

特別展・企画展のテーマに沿って、来館者の歴史文化に対する関心を高めるなど、生涯学習のきっかけづくりのために、講演会を開催する。各展示について1～2回程度を企画し、合計4回程度を計画する。

(2) 「木曜大学」等の講座

木曜大学・木曜大学大学院等の講座を開催する。木曜大学6回、木曜大学大学院8回を予定する。

(3) 弥生時代講座

弥生時代の研究グループ「近畿弥生の会」と連携し、弥生時代講座を4回程度を予定する。

3. 学校教育との連携事業

(1) 校外学習受入れ・体験学習

各学校との連携により、ワークシートの利用を呼びかけ、要望に応じて当館の学芸員や教育専門員が展示解説を行い、展示室での生徒の学習を支援する。

①下見説明会

事前に説明会を催し、また、館案内DVDの貸出を行うことで事前学習の一助とする。

②体験ゾーンの活用

弥生文化に親しみをもってもらうため、小中学生をはじめとする団体利用者に対し、屋外に設置した竪穴住居の復元施設の活用を推進する。

(2) 「博物館 in school」事業 出前授業

幼稚園から高等学校にいたる学校等を対象に、弥生文化をはじめとした歴史や博物館に、興味や親しみをもってもらうため、教育専門員・学芸員が学校等に出かけ、体験学習等を行う。

(3) 博学連携事業

①博学連携セミナー

教員対象に授業などの学習活動に活かせる内容の特別展解説、テーマ講演等を行う。高校生を対象に長期休暇期間中に歴史・文化等に親しみ、興味をもつ機会となる内容のセミナーを実施する。

②教員の研修、研究団体の受け入れ

教員や研究団体等の研修を博物館に誘致し、連携を深める。

③大学生博物館実習

近畿圏内をはじめとする各大学からの依頼を受けて博物館実習を行う。

④高校生の講座等

各高校からの依頼を受けて講座等を行う。

⑤中学生の職場体験学習

将来希望する職業を実際に体験し、働くことを学び、将来の職業選択の参考とする体験学習の支援を行う。

⑥研究事業

大学、教育委員会等研究者と学術交流を行う。また、他博物館、大学、研究機関、学会などと連携した研究活動を行う。外部からの執筆者をつのり『弥生文化博物館研究報告』第8集の刊行を目指す。

4. 「でかける博物館」事業

(1) 出張展示

下半期の設備改修工事に伴う臨時休館期間において、府有財産でもある館蔵品を有効に活用し、かつ当館の存在を周知するため、府内の大型商業施設、博物館・資料館等に館蔵品を中心とした出張展示を行う。

①泉佐野市立歴史館いずみさの

ア. 冬季特別展「(仮) 大阪の弥生文化—和泉と河内—」

イ. 開催期間：令和5年1月21日（土）～3月12日（日）

ウ. 開催趣旨：大阪南部の和泉、中部の河内を並列させた考古資料展として開催する。和泉を代表する池上曾根遺跡を中心に、堺市の下田遺跡、四ツ池遺跡など主要遺跡の出土遺物や、泉南では泉佐野市の湊遺跡、泉南市の男里遺跡などから漁労や製塩関係の土器ほかを展示する。また河内では船橋遺跡、瓜生堂遺跡、亀井遺跡などの出土遺物を展示し、大阪府内における各地の拠点集落や地域性、交流について検討する。歴史館いずみさのと共催。

②藤井寺市教育委員会（予定）：船橋遺跡出土遺物の展示

開催期間：令和4年10月以降の1ヶ月間

③八尾市立歴史民俗資料館（予定）：亀井遺跡出土品の展示

開催期間：12月3日から令和5年1月16日

④堺市立みはら歴史資料館（M・Cみはら）（予定）：船橋遺跡出土遺物の展示

開催期間：未定

⑤柏原市立歴史資料館（予定）：船橋遺跡出土遺物の展示

開催期間：未定

⑥東大阪市立埋蔵文化財センター発掘ふれあい館（予定）：船橋遺跡出土遺物の展示

開催期間：未定

⑦サテライトミュージアム

和泉市池上曾根情報館と泉大津市池上曾根弥生学習館にて当館所蔵品の展示を通年、行う。

(2) 出張体験学習

各種催しに体験学習ブース等を出展する。下半期の設備改修工事に伴う臨時休館期間には商業施設での出展を予定。

①大型商業施設（イオンリテール株式会社）

館周辺を中心とするイオンモールで、ワークショップ・着ぐるみアトラクションなどによる出展・広報活動を計画し実施する予定。

ア. イオン藤井寺SC2階イオンホール

開催期間：10月11日（火）～10月23日（日）

イ. イオンモール日根野

開催期間：令和5年2月上旬の1週間

(3) 学芸員の出張講演・講座

当館学芸員が出向き、講演や体験学習を実施する。成人の生涯学習を支援する。

(4) 遺跡見学ツアー

新たな顧客を開拓するため、民間旅行会社と連携し、日本の弥生文化に関わる遺跡等の見学旅行を企画する。

5. 「府民が参加する博物館」事業

(1) やよいミュージアムコンサート

「音楽のきこえる博物館」のコンセプトのもとに、エントランスホールを活用して、子どもから高齢者までが気軽に参加できるクラシック、ポピュラー、邦楽等さまざまなジャンルのコンサートを6回程度実施する。

(2) ミニギャラリー

府民の創作活動を発表する場として、エントランスホールを活用し、絵画、写真等の作品展を行う。2回程度実施する。

(3) こどもファーストデイ（みんないっしょに考古楽）

大阪府の「こころの再生」施策の一環として毎月第3土曜日に実施する。体験活動を通して、当館ならびに弥生文化を身近に感じてもらうため、弥生文化を中心とした、子どもから大人までを含めた一般向けの体験型の考古学講座を6回前後開催する。

(4) 絵画コンテスト

当館を身近な存在として捉えてもらうため、弥生時代にちなんだテーマをもとに小・中学生を対象に作品を公募し、館内で優秀作品の表彰、館内と大阪府立中央図書館で展示を行う。

(5) ボランティア活動および研修

講演会・ワークショップ・体験学習・出前授業等の事業への支援、年間スケジュールや各展示趣旨の翻訳などの博物館環境整備への支援などを通して広く府民に当館事業に参加してもらうため、継続して学生を含めたボランティアを募集する。なお、館活動を支援するボランティアに対しては、随時研修を行う。

6. 広報普及事業

(1) 展覧会、イベント開催のポスター・チラシの配布

各展覧会、イベント開催にあわせ、ポスターやチラシを作成し、学校や公民館をはじめ、各機関に配布する。

(2) ミュージアムカレンダー

館行事を広く周知するため、行事予定をカレンダーにして作成、配布する。

(3) ホームページ、WEBによる情報発信

当館ホームページおよびフェイスブック・インスタグラムを用いて、常設展・特別展・企画展・博物館催し物等に関する情報を発信する。館のマスコットキャラクターが弥生文化や当館の展示物、催し等を紹介する4コマ漫画や、特別展・企画展の解説動画をホームページに公開し、インターネット上で配信を行う。

(4) 広報活動の活発な展開

各学校に対し、校長会・社会科研究部会・事前説明会等を通じ、積極的な校外学習や出前授業等の利用促進活動を行う。また、市町と連携し市町広報誌やホームページ等への当館展覧会、行事案内等の掲載について協力をあおぎ、効率的かつ効果的な広報を行う。館行事を広く周知するため、大阪府教育記者会、堺市政記者クラブ他、各種報道機関等に、積極的かつ広範に資料提供を行う。新規来館者を確保するため、共同で指定管理を担う近鉄ファシリティーズ株式会社のグループ関連企業の近鉄文化サロンのような講座等を共同で実施し、広報や企画に関して民間の視点からの協力を得る。新聞広告やミニコミ誌なども用い、広報する。

(5) 要覧作成

『令和3年度弥生文化博物館要覧』（令和5年3月31日発行）を作成し、関係諸機関に配付する。

7. サービス向上事業

(1) マーケットリサーチ、満足度調査の実施

今後の事業展開の基礎とするため、アンケート（一般用・子ども用）等をとおして、来館者の博物館に対するニーズを把握する。調査結果をWEBサイトにおいて公開する。

(2) 弥生文化サロンの開設

一般の方がたと館長が自由に語る場を館内に創設し、新たな府民サービスの提供を企画する。

(3) 学芸員による展示解説

展示室において学芸員が展示解説を行う。

(4) 子どもにもわかりやすい解説

館キャラ「カイト」と「リュウさん」によるわかりやすい解説を提供する。

(5) 音声ガイドの無料貸出

音声ガイド（日本語・中国語）および館キャラクター「カイト」と「リュウさん」による音声ガイド（日本語・英語・韓国語・中国語）を用意し、貸し出す。

(6) 解説シートの配布、図録等の出版

展示観覧の補助となる解説シートを作成配布する。展覧会の理解を深めるため、展覧会図録等を発行し、関係機関に配布する。

8. 府施策協力事業

(1) 池上曾根遺跡史跡公園の活用

博物館実習のプログラムに取り入れるなどして、学芸員の解説による史跡公園の見学を行う。史跡公園・情報館や学習館で開催される行事に協力し、体験学習等を実施する。

(2) 他館との連携

泉州・紀北ミュージアムネット加盟館等と連携して多様なワークショップ等を行う。

(3) 障がい者等への利用援助

支援学校の校外学習に際して柔軟な対応で解説や体験メニューを実施し、障がい者の健康面に配慮し、休憩室を必要に応じて確保する。

9. 管理事業

(1) 日常的管理・修繕

指定管理共同企業体の近鉄ファシリティーズ株式会社と共に、施設管理年間計画を策定し、定期点検等、施設管理を行う。また、経年劣化等により修繕が必要な箇所を抽出し、所管課に改善を提案する。急を要するものや、来館者の満足度向上に資すると思われるものについて、適宜修理等を提案し、実施する。

(2) 下半期の設備改修工事に伴う資料の移動

設備改修工事期間中、特別収蔵庫温湿度管理機器が休止するにあたり、国指定重要文化財西浦銅鐸、大阪府指定有形文化財池上曾根遺跡出土木製品の劣化・毀損を防止するため、他施設への一時移動を計画し、実施する。

(3) 下半期の設備改修工事後にむけての点検・整備

設備改修工事終了後の一か月間、常設展示室および第2展示室の展示品ならびに機材の清掃・点検・整備を行い、再開館にむけて十分な準備を計画し、実施する

(4) 館蔵資料の管理、保管

所蔵資料の適切な管理を実施する。展示室、特別収蔵庫において、温湿度データを集積する。

(5) 館蔵資料の貸出し

収蔵資料を幅広く活用するために、他の博物館等からの要請により貸出しを行う。

(6) 図書資料管理・収集

学術図書の計画的購入など、資料管理し、収集に努める。また、府民の知的財産を充実させるため、開架図書の充実をはかる。

(7) 学芸研修

職員を会議や研修に参加させ、博物館管理・運営の参考とする。

(8) ミュージアムスタッフの人材育成

人と人とのふれあいを大切にし、心地よい博物館を目指して、来館者に対する応対を朝礼等で共有する。

来館者の質問に積極的に対応できるような取り組みを行う。

(9) 人権研修・消防訓練

職員の人権研修を実施する。消防計画に基づいて自衛消防訓練を実施する。

(10) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑みて、各事業の内容・回数・実施方法を検討し、開催する。

また、館内消毒を心がけるとともに、来館者に向けて手指消毒の呼びかけや検温等も継続して行う。

IV. 大阪府立近つ飛鳥博物館事業

1. 展示公開事業

「日本古代国家の形成過程と国際交流をさぐる」をメインテーマに、博物館法並びに大阪府博物館条例に基づき、展示公開を行う。

(1) 常設展示

『近つ飛鳥と国際交流』、『古代国家の源流』、『現代科学と文化遺産』をテーマとし、展示する。

(2) 特別展・企画展

新規の来館者の裾野を広げるとともに、来館者の歴史文化に対する知的満足度をさらに高めるため、特別展・企画展を下記のとおり開催する。

①夏季特別展「(仮) 献ずる器—葬送儀礼を彩る特別な器—」

ア. 開催趣旨

古墳時代中期、大陸文化の影響を受けて作られるようになった須恵器には、集落ではほとんどみかけない古墳専用の独特な形をした器がある。一須賀古墳群に数多く見られる坏をたくさん貼り付けた子持器台もその一つである。この特別展では、横穴式石室の導入とともにみられる須恵器の多量副葬や子持器台などの特殊な須恵器を中心に古墳に副葬された土器について考える展示を行う。

イ. 開催期間 令和4年7月30日(土)～9月25日(日)【50日間】

②秋季企画展「(仮) 大和川と船橋・国府遺跡—古代河内中枢の歴史を探る—」

公益財団法人大阪府文化財センター設立50周年記念

ア. 開催趣旨

船橋遺跡は、大和川と石川の合流点、古代の河内国府とも推定される国府遺跡も近い大和への主要交通路の通る重要な遺跡である。この展示では、古墳時代から古代にかけての、水上交通と陸上交通の結節点について考える。展示では弥生文化博物館の松岡コレクションの収集品、大阪府教育委員会、公益財団法人大阪府文化財センターなどの所蔵する資料を中心に展示を行う。また、水上交通と陸上交通の結節点という観点から、淀川をテーマとして同時期に企画展を開催する高槻市立今城塚古代歴史館と連携し、関連行事等を実施する。

イ. 開催期間 令和4年10月22日(土)～12月18日(日)【50日間】

ウ. 共催 高槻市立今城塚古代歴史館 公益財団法人大阪府文化財センター

(3) 特別陳列・連携展示

①春季特別陳列「茅渟縣陶邑と須恵器生産のはじまり—大庭寺遺跡出土品指定記念—」

ア. 開催趣旨

堺市大庭寺遺跡の出土品が大阪府指定文化財に指定されることを記念して紹介する展示。遺跡は、須恵器の大規模生産遺跡「陶邑窯跡群」最古の生産関連遺跡で、同時代に朝鮮半島で作られていたのと同じ多孔式高杯などの様々な須恵器が出土している。古墳時代中期に始まる窯業生産の大変革の先駆けとなった資料を紹介する。

イ. 開催期間 令和4年4月23日（土）～7月3日（日）【62日間】

（4）スポット展示

周辺自治体の調査成果や館収蔵資料のうち未公開資料等、最新情報をスポット展示で発信する。

①滋賀県立安土城考古博物館との連携展示「でかける博物館 in 近つ飛鳥博物館」

②地元市町村との連携展示

2. 講演会事業

（1）特別展・企画展等関連の講演会

特別展・企画展等のテーマに沿って、来館者の歴史文化に対する関心を高めるなど、生涯学習のきっかけづくりのために、講演会を開催する。各企画1～2回程度を予定し、合計5回程度を計画する。今年度は、秋季企画展に関わって、高槻市立今城塚古代歴史館との共催講演会も計画する。

（2）近つ飛鳥入門講座・土曜講座

①入門講座「もっと知りたい『ちかつ博』」

常設展示の内容に基づいた基礎的な講座として実施する。毎月第2土曜日を基本とし、10回程度を予定。

②土曜講座「オーサカ発 調査研究最前線」

学芸員による研究成果に加えて、大阪府教育庁・大阪府文化財センターをはじめ、大阪府内市町村教育委員会などの協力を得て講師を招聘し、最新の研究成果を伝える場として開催する。毎月第4土曜日を基本とし、10回程度を予定。

3. 学校教育との連携事業

（1）校外学習受入れ・体験学習

校外学習を積極的に受入れる。展示物の見学だけではなく、ペーパークラフト・勾玉工房等のワークショップおよび当館展示品の修羅（古墳時代の運搬具）の復原模造品を使った体験学習、風土記の丘（一須賀古墳群）のウォークラリーを実施する。古墳・飛鳥文化に親しみをもってもらい、また、展示物の理解を助ける。

（2）学校団体利用案内の作成

学校団体が来館する際の利用手引を作成し、利用を促す。近隣関連施設とも含めたコース提案もすすめる。

（3）学習用ワークシートの作成

博物館での児童生徒の学習意欲を促し、展示に対する興味を喚起するためにワークシートを作成する。

（4）古墳の森コンサート

博物館屋上階段広場を利用して、音楽会を開催し、親しみある博物館・風土記の丘にふれ合う場とする。地元高校生の軽音楽部の発表の場となり、他学校との交流の場とする。春季、秋季2回開催する。4月29日（金・祝）、11月3日（木・祝）。

（5）「博物館 in school」事業 出前授業

小学校、中学校、高等学校に教育専門員・学芸員が出向き、ワークショップ（体験学習）を通じて、古墳・飛鳥文化の理解に努め、館に親しみをもってもらう。中学校・高等学校ではキャリア教育の一環として博物館の仕事を紹介する。

（6）博学連携事業

①教員の研修、研究団体の受け入れ

教員や研究団体等の研修を博物館で行うように誘致し、連携を深める。教員研修では学校教育での博物館施設の活用連携を深める。

②大学生博物館学実習および芸術大学実習

各大学から学芸員課程の履修学生を受け入れ、博物館学実習を行う。また、大阪芸術大学のさまざまな実習の場として支援する。

③中学生の職場体験学習

博物館事業運営の体験学習を実施し、将来の職業選択の参考となる体験の支援をする。

④地元大学との連携

大阪芸術大学と博学連携活動の場として博物館を活用し、近つ飛鳥ギャラリーを活用した事業を実施する。

⑤研究事業

ア．他博物館等と連携した研究活動

大阪府、奈良県の博物館が連携した「金剛葛城地域博物館ネットワーク協議会」に加盟し、情報・意見交換、共同事業の開催など、相互協力した事業を進める。また、学会・研究会等と連携した活動も努める。

イ．国内・海外の研究者との学術交流

展示企画・研究活動、普及啓発事業を円滑にするため、国内外の研究者や博物館関係者との交流を活発に行う。

4. 「でかける博物館」事業

（1）出張展示

実物資料や写真パネル等、館外での出張ミニ展示を行う。他地域の博物館・資料館との連携による展示や、イベントスペースなどにおける展示も積極的に行う。歴史教育の一助とするとともに、当館の認知度アップにもつなげる。

①連携展示「でかける博物館 in 滋賀県立安土城考古博物館」の実施

②大阪府立狭山池博物館連携展「でかける博物館」

（2）出張講座・ワークショップ

公民館等へ出向き、講演や体験学習を実施し、古墳・飛鳥文化の理解に努め、地域における歴史遺産の普及活動や成人の生涯学習を支援する。また、近鉄グループ等と連携し、近鉄文化サロンのような講座等を共同で実施し、広報や企画に関して民間の視点から協力を得る。

（3）大阪市内等での講演会

当館の活動の府民等への周知と世界遺産百舌鳥・古市古墳群への府民の理解の醸成をはかる。数百名規模程度の会場を設定する。

(4) れきしウォーク（現地見学会）

学芸員の案内による実地での遺跡見学会を実施し、大阪の歴史を学び、来館の機会を促す。各展覧会に関わる見学会の他、大阪府内周辺各地の見学会を実施する。春秋冬各1回、展示企画関連2回の合計5回程度を予定。

(5) 遺跡見学ツアー

旅行会社等と連携し、博物館周辺の遺跡と博物館を見学するツアーや遠方へのツアー等の実施に協力する。

(6) 地元市町村との連携

地元市町村や自治会等の文化祭等の催しへの積極的な参加をする。

5. 「府民が参加する博物館」事業

(1) 近つ飛鳥ギャラリー

地階広場、1階ロビーの空間を活用し、府民の文化活動を支援する。生涯学習の発表の場として、博学連携などの成果なども含めて、絵画・写真等の展示を行う。

(2) こどもファーストデイ

大阪府の「こころの再生」施策の一環として毎月第3土曜日に実施する。家族のコミュニケーションを深めるきっかけづくりを応援する。展示品に関わるものの工作や、風土記の丘の木の実や枝等を利用した工作指導を実施する。

(3) 博物館バックヤード探検ツアー

親子、また一般を対象に、博物館により親しみが持てるよう、博物館の仕組みの説明や、普段公開しない収蔵庫などの博物館のバックヤードを観察する見学会を実施する。5月、7月、8月、11月、2月の合計5回程度を予定。

(4) 夏休みこども工作室

小中学生を中心として、その保護者と共に、リサイクル資材などを活用した工作室を開催する。

(5) こども勾玉づくり工房

小中学生とその保護者を対象にして、勾玉づくりを行う。

5月3日（火・祝）の古墳時代まつりと8月に計3回程度を予定。

(6) 古代衣裳着用体験

古墳時代・古代の復元衣裳を来館者に着用体験していただく。イベントや他の行事に合わせて開催し、古墳時代・古代への意識を深めていただくために計3回程度実施を予定。

(7) ボランティアの募集・活用、地域ボランティア、各種団体との協働

継続してボランティアを募集し、講演会・体験学習などの事業等、幅広い分野への支援活動を行っていただく。また、南河内地域の観光ボランティアグループとの共同事業を推進する。

6. 風土記の丘活用事業

(1) 古墳時代まつり「春の博物館であそぼう」

豊かな自然を持つ風土記の丘を活用し、ウォークラリー・勾玉づくり・森の工作などを開催する。5月3日（火・祝）。

(2) 風土記の丘古墳探検ツアー

小中学生および保護者を対象に、近つ飛鳥風土記の丘の一須賀古墳群を見学する探検ツアーを実施する。5月、11月に合計2回程度を予定。

(3) うめまつり

風土記の丘の梅開花にあわせて、体験や物販販売等、地元団体と連携したイベントを実施する。

(4) さくらまつり

風土記の丘の桜開花にあわせて、体験や物販販売等、地元団体と連携したイベントを実施する。

7. 広報普及事業

(1) 展覧会、イベント開催のポスター・チラシの配布

各展覧会、イベント開催にあわせ、ポスターやチラシを作成し、学校や公民館をはじめ、各機関に配布する。

(2) マスコミ・ミニコミ紙等への情報提供等

新聞、テレビ、ラジオの報道機関、ミニコミ誌へ積極的に情報を提供する。また、博物館周辺の地域住民へは自治会を通じて情報を提供する。

(3) ホームページの充実、WEBによる情報発信

常設展・特別展・企画展の情報・博物館催し物案内など、近つ飛鳥博物館ホームページから発信する。外国人来館者にも対応できるよう、外国語による情報発信を強化する。また、従来から行ってきた Facebook・LINE 等に加えて、新たな顧客層獲得のために画像を中心とした Instagram の公式アカウントを開設し、館の魅力発信に努める。今年度は、これらの SNS を活用した情報発信を多角的に進める。また、展覧会紹介等、動画配信を実施する。

(4) 機関紙「博物館だより」（アスカディア・古墳の森）の発行

展示会の案内、博物館活動の報告、タイムリーな話題や収蔵品の紹介を掲載して、博物館と府民のコミュニケーションを図る PR 誌を年2回発行する。

(5) 近つ飛鳥博物館「館報」の刊行

館のテーマに沿った研究報告、博物館活動についての報告や年間事業記録などを掲載する館報を刊行する。

(6) 催し物案内の作成

府民や各種団体に博物館行事の周知を図り、来館を促すためのチラシを作成する。3か月単位のミュージアムカレンダーを作成し、配布する。

(7) 校外学習・出前授業の案内活動

小・中学校および高等学校の校外学習や出前授業等の利用を促すため、案内活動を行う。

(8) 広報の強化

近隣市町の協力を得て、広報誌等に当館の案内やコラム等を掲載し、効率的かつ効果的な広報を行う。また、新聞等の有料広告を効果的に活用する。インターネットの博物館情報サイト等の活用や、共同運営をおこなう近鉄ファシリティーズ株式会社のグループとの連携により、関連施設での広報展示、パンフレットへの掲載等、より効果的な広報活動を展開する。

8. サービス向上事業

(1) マーケットリサーチ、満足度調査の実施

アンケート等を通して、来館者の博物館に対するニーズを明確にし、今後の事業展開の基礎とする。調査結果を Web サイトにおいて公開する。

(2) 相談コーナーの設置

週末や企画展等の開催期間を中心に、実物資料に触れることができるコーナーを設置し、かつ、来館者からの文化財に対する様々な疑問に応える。

(3) 学芸員による展示解説

展示室において学芸員が展示解説を行う。

(4) 子どもにもわかりやすい解説

各展覧会で子ども向け解説パネル・リーフレット等を提供する。

(5) 音声ガイドの無料貸出

常設展示の日本語（一般・児童）の他、英語・韓国語・中国語を用意し、外国人利用者へも配慮する。特別展・企画展においては別途、日本語解説を作成する。

(6) 解説シートの配布、図録等の出版

展示観覧の補助となる解説シートを作成配布する。展覧会の理解を深めるため、展覧会図録等を発行し、関係機関に配布する。

9. 府施策協力事業

(1) 百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産に関する事業への協力

関連遺跡資料を展示する。大阪府および堺市、羽曳野市、藤井寺市の関連行事に参加し、古墳群の価値やその歴史的意義の理解の促進に協力する。

(2) 障がい者等への利用援助

支援学校の校外学習に際して柔軟な対応で解説や体験メニューを実施し、障がい者の健康面に配慮し、機器用電源や休憩室を必要に応じて確保する。

10. 管理事業

(1) 日常的管理・修繕

指定管理共同企業体の近鉄ファシリティーズ株式会社と共に、施設管理年間計画を策定し、定期点検等、施設管理を行う。また、経年劣化等により修繕が必要な箇所を抽出し、所管課に改善を提案する。急を要するものや、来館者の満足度向上に資すると思われるものについて、適宜修理等を提案し、実施する。

(2) 館蔵資料の管理、保管

所蔵資料の適切な管理を実施する。展示室、特別収蔵庫において、温湿度データを集積する。重要文化財「修羅」、紫金山古墳、南塚古墳出土品などについては、所蔵者、研究機関を交えた定期的な点検を実施する。

(3) 館蔵資料の貸出し

保管する収蔵資料を幅広く活用するために、他の博物館等からの要請により貸出しを行う。

(4) 図書資料管理・収集

学術図書の計画的購入等、資料管理し、収集に務める。各博物館・各都道府県・市町村から寄贈された図書を登録し、書庫へ配架する。また来館者に文化財に関しての研究・探究心を深めていただくため、普及啓発用図書や学術図書を計画的に購入し書籍閲覧コーナーの充実をはかる。

(5) 学芸研修

職員を会議や研修に参加させ、博物館管理・運営の参考とする。

(6) 客員学芸員制度

展示企画・研究活動について実務面での人的な協力体制をつくり、より充実したものとするため、客員学芸員を委嘱する。

(7) ミュージアムスタッフの人材育成

人と人とのふれあいを大切にし、心地よい博物館を目指して、来館者に対する応対を朝礼等で共有する。展覧会開催にあわせてスタッフへの展示解説を実施し、来館者の質問に積極的に対応できるような取り組みを行う。

(8) 人権研修・消防訓練研修

職員の人権研修を実施する。消防計画に基づいて自衛消防訓練を実施する。

(9) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑みて、各事業の内容・回数・実施方法を検討し、開催する。また、館内消毒を心がけるとともに、来館者に向けて手指消毒の呼びかけや検温等も継続して行う。

(10) 近つ飛鳥風土記の丘管理

① 日常的管理

園路およびみどりの広場の草刈りおよび清掃、園内施設の清掃等を実施する。害虫による被害、損壊、損傷等の行為に係る点検をする。

② 全国風土記の丘協議会への参加

協議会へ出席し、各地の風土記の丘の活用について情報を収集する。

V. 泉佐野市立歴史館いずみさの事業

1. 展示公開事業

(1) 常設展示

泉佐野を代表する歴史遺産である中世荘園の日根荘の時代をテーマにした展示をする。その時代の人びとの暮らしなどを当時の絵図や日記、荘園模型をもとに紹介する。

(2) 特別展・企画展

新規の来館者の裾野を広げるとともに、来館者の歴史文化に対する知的満足度をさらに高めるため、特別展・企画展を下記のとおり開催する。

① 夏季企画展「耕す 育てる 収穫する」

ア. 開催趣旨

少子高齢化が加速する現代社会において、これまで私たちの暮らしを支えてきた田畑は次々と姿を消し、住宅地や駐車場へとその姿を変えつつある。本展示は農業の歴史や重要性を次代に伝えることを目的とする。展示ではすべて手作業で行われていた頃から、機械化される直前までの農業に焦点を当て、市内に残された民具などをもとに、泉佐野の農業の様子を復元し、民具を通じて地域性や発達過程をたどる。

イ. 開催期間 令和4年5月21日（土）～8月28日（日）

② 秋季企画展「（仮）郷土玩具展」

ア. 開催趣旨

近年では商品化された玩具たちにおされ、郷土玩具を目にする機会は著しく減少している。本企画展では、本館所蔵品から全国各地の風土を色濃く反映した郷土玩具を通じて、地域性やこれらに込められた当時の人びとの願いに迫る。そして全国にわたって集められた郷土玩具を一堂に会することにより、地域色豊かな玩具が多く存在すること、またそれらを保存する必要があることを発信していく。

イ. 開催期間 令和4年9月17日（土）～12月11日（日）

③ 冬季特別展「（仮）大阪の弥生文化―和泉と河内―」

ア. 開催趣旨

大阪南部の和泉、中部の河内を並列させた考古資料展として開催する。和泉を代表する池上曾根遺跡を中心に、堺市の下田遺跡、四ツ池遺跡など主要遺跡の出土遺物や、泉南では泉佐野市の湊遺跡、泉南市の男里遺跡などから漁労や製塩関係の土器ほかを展示する。また河内では船橋遺跡、瓜生堂遺跡、亀井遺跡などの出土遺物を展示し、大阪府内における各地の拠点集落や地域性、交流について検討する。本特別展は大阪府立弥生文化博物館との共催で開催する。

イ. 開催期間 令和5年1月21日（土）～3月12日（日）

(3) エントランスホール展示

① 日本遺産ガイダンスセンター

日根荘の日本遺産認定に関連して、令和2年度に設置されたガイダンスセンターにおいて、市民や来館者を対象に日根荘に関する知識や現地見学の便を図る。

② 歴史館ギャラリー（市民連携活動）

市民の創作活動を発表とする場、他自治体と連携した展示を歴史館ギャラリーとし、絵画、写真等の作品展を自主事業として随時実施する。

③ 図書閲覧コーナー

郷土史の理解を深めるため、郷土の歴史文化を中心とした図書を集めて市民が自由に閲覧できるコーナーを設ける。

2. 講演会事業

（1）館長講演会

年に2回、館長による講演会を行う。

（2）特別展・企画展関連の講演会

特別展・企画展のテーマに沿って、来館者の歴史文化に対する関心を高めるなど、生涯学習のきっかけづくりのために、講演会を開催する。

（3）歴史学講座 泉佐野市に関わる歴史や、歴史全般に関わる講座を実施する予定。

城郭講座 日本城郭の歴史の変遷や構造について連続講座を行う。

（4）古文書講座

古文書に親しむ講座を行う。

（5）学芸員の出張講演・講座

歴史館いずみさのの知名度アップを図り、多くの方々の来館を促進するため、他施設からの依頼に応じて出張講演等を実施する。

（6）学芸員による展示解説

講演会開催日に特別展示室において学芸員が展示解説を行うほか、来館者からの要望に応じて随時展示解説を実施する。

3. 体験学習事業

（1）小中学校の団体見学受け入れ

各学校と連携し、学芸員が展示解説を行い、展示室での生徒の学習を支援する。

（2）出前授業

幼稚園児から高校生に至るまで、館や郷土の歴史・民俗に親しみをもってもらうため、学芸員等が学校に出かけ、体験学習等を行う。

(3) 大学・高等学校、その他団体見学受け入れ

大学、高等学校、その他団体を受け入れ、学芸員が展示解説を行う。

(4) 子ども向け体験（れきし館ワークショップ）

毎月1回程度、体験学習事業を開催する。スタンプカードを作成し、継続的な学習、来館を促進する。

(5) いずみさの歴史ウォーク

郷土の史跡や文化財をめぐる歴史ウォークを行う。

(6) 市民・各団体連携（でかける歴史館）

他施設において、講演会や体験学習事業等を実施し、歴史館いずみさのの知名度アップを図り、多くの方々の来館を促進する。

4. 資料収集・提供事業

(1) 寄贈等された図書の登録

各博物館・市町村等から歴史館へ寄贈等された図書を台帳に登録し、書庫に開架する。

(2) 資料等の貸出

当館所蔵の資料（実物・復元・写真・映像等）を依頼に応じて、全国各地の博物館等へ貸出し、所蔵資料を活用するとともに、各方面へ日根荘をはじめとする泉佐野市に関する情報を発信する。

(3) 展覧会、イベント開催のポスターチラシの配布

各展覧会、イベント開催にあわせ、ポスターやチラシを作成し、学校、公民館をはじめ、各機関に配布し、周知を図る。

(4) 展覧会でのリーフレット・図録等の作成配布

①各展覧会にあわせ、展示資料一覧等の閲覧ガイド・リーフレット・図録のいずれかを作成し、来館者に配布すると共に、図書館、各地博物館をはじめ、各機関に配布する。

②図録の再版 泉佐野市教育委員会の既刊行の図録には、貴重な情報源でありながら在庫がないものや残部わずかのものがあるところから図録の再版を行う。

(5) 『歴史通信いずみさの』の刊行

館の活動を報告し、博物館に対する市民の理解を得るため、年1回『歴史通信いずみさの』を刊行する。

(6) 歴史館紹介ちらしの配付

出前授業で学校を訪問した際、生徒各々に来館を促すちらしを配付し、小・中学生を中心とする子どもたちが家族で歴史館に来館する動機づけを進める。

(7) 広報活動の活発な展開

館行事を広く周知するため、広報活動を充実する。

①フェイスブック等 SNS にリアルタイムに行事の告知や実施報告記事を掲載する。

②泉佐野市広報誌『広報いずみさの』に行事を随時掲載する。

③泉佐野市政記者クラブ、新聞社、テレビ局、ミニコミ誌等に情報を提供する。

(8) 満足度調査の実施

よりよい館運営を行うため、展示室にアンケートを設置し、また、講演会ではアンケート用紙を配付し、来館者の要望や展示・講演会への意見等の把握に務める。

(9) 「れきし相談コーナー」の設置

市民からの歴史・考古学に関する質問や相談等にきめ細やかに対応する。

5. 人材育成事業

(1) 博学連携事業の推進

中学生職場体験や大学生の学芸員資格取得に伴う博物館実習等の要請を受け入れる。

(2) ボランティア活動（市民が参加する歴史館）

広く市民ボランティアを募集し、市民とともに博物館事業を推進していく。

6. 施設管理事業

(1) 資料の保管

展示室、一般収蔵庫、特別収蔵庫の温度湿度を常時監視し、適温適湿の維持に務める。一般収蔵庫と特別収蔵庫においては燻蒸処理を年1回実施する。

(2) 施設（備品）の維持管理

館内施設（備品）を適切な状態に保つよう務める。

(3) 施設の利用許可対応

研修室の利用許可の対応を行う。

(4) 市との意見交換の実施

管理運営に関する協議や意見交換を定期的に実施する。

(5) 館員の研修

人権研修を実施する。障がい者に配慮した対応の研修を実施する。

(6) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑みて、各事業の内容・回数・実施方法を検討し、開催する。

また、館内消毒を心がけるとともに、来館者に向けて手指消毒の呼びかけや検温等も継続して行う。

7. 書籍の販売協力

泉佐野市刊行の常設展、特別展の図録等の書籍の販売に協力する。

VI. 日本民家集落博物館事業

1. 展示公開事業

一般府民への普及啓発と博物館の研究成果の公開のために、企画展を開催する。また、展示室を一般府民に開放し、市民展示も開催する。

(1) 常設展示

国指定重要文化財3件、国指定重要有形民俗文化財1件、国登録文化財3件、大阪府指定有形文化財4件、大阪府指定有形民俗文化財1件を展示公開する。「むかしのくらし展示」では民具を展示するとともに昭和30年代の一部屋を再現し、公開する。石臼体験コーナーを併設する。

(2) 企画展

① 「とほるのかいこ日記」

ア. 内 容 飛騨白川の民家で昭和初期まで行われていた養蚕にちなんで、館長が、夏季に蚕を飼育した際の観察記録と繭から採取した絹糸や真綿等を紹介する。

イ. 開催期間 令和4年9月3日(土)～10月30日(日)

② 「国重要文化財 信濃秋山の民家(旧山田家住宅)保存修理工事竣工記念」写真展

ア. 内 容 令和2～3年度にかけて保存修理工事を実施し、この度竣工したことをちなんで、工事の状況を紹介します。写真展および現地の見学会を実施する。

イ. 開催期間 未定

(3) 市民展示

地域の文化サークルや団体向けに日向椎葉の民家他の文化財指定民家をギャラリーとして活用することにより地域に開かれた博物館を目指す。

① 写真展「日本の風景 九州編」

ア. 内 容 博物館スタッフによる、九州の文化財や風景の写真展。

イ. 開催期間 令和4年4月3日(日)～4月24日(日)

② 西野誠一切り絵展「ネパールの思い出」

ア. 内 容 西野誠一が、半世紀前に訪れたネパールの風景をテーマにした切り絵作品展。

イ. 開催期間 令和4年4月29日(金・祝)～5月29日(日)

③ 写真展「民家うつろいの記録 -写真にて-」

ア. 内 容 竹田笙子による、風景をテーマにした切り絵作品展。

イ. 開催期間 令和4年6月4日(土)～6月26日(日)

④ ハンドメイド作品展「民家集落の美しい竹林から2」

ア. 内 容 ハンドメイドクラブの皆さんによる竹細工の作品展。

イ. 開催期間 令和4年7月9日(土)～8月31日(水)

⑤ 游心会書道展

ア. 内 容 豊中市に拠点を置く書道グループの皆さんによる書道作品展。

イ. 開催期間 令和4年10月中旬～11月初旬

2. 講演会解説事業

(1) 民家解説

展示民家について、ボランティアによる解説を行う。

(2) 「北河内の茶室公開」

ア. 内 容 北河内の茶室を来館者に公開し、案内を行う。

イ. 開催日 4月2日以降の毎月第1・第3土曜日（8月を除く）。1～3月は、第3土曜日。

(3) 「白川の民家2階特別公開」

ア. 内 容 飛騨白川の民家2階を来館者に公開し、案内を行う。

イ. 開催日 4月3日以降の毎月第1・第3日曜日（8・12～2月を除く）

7月中旬から8月は毎週土曜日・日曜日（小学生の親子向け）

3. 体験学習・学校教育連携事業

(1) 「みんかで紙芝居」

ア. 内 容 小学生の親子を対象に昔話の紙芝居実演を行い、日本の昔話に親しんでもらう。

イ. 開催日 4月9日（土）以降の毎月第2・第4土曜日（7・8月をのぞく）

(2) 季節行事

日本の四季折々の歳時記にちなんだ催し（ようか日、鯉のぼり・5月人形、七夕飾り、お盆飾り、正月飾り、雛飾り等）を行う。

(3) 囲炉裏体験

展示民家において、ボランティアによる囲炉裏体験を行う。

(4) 参加体験型事業

日本の昔ながらの遊びや暮らしについて楽しく学べる参加・体験型の催しを行う。

①コマ遊び体験

ア. 内 容 小学生の親子を対象に、椎葉の民家前広場で、コマ遊び体験を行う。

イ. 開催日 令和4年4月9日（土）～令和5年3月25日（土）までの毎週土曜日（夏季・冬季を除く）

②紙芝居体験

ア. 内 容 小学生の親子を対象に、椎葉の民家の縁側で、紙芝居体験を行う。

イ. 開催日 令和4年4月2日（土）～11月26日（土）までの第2・第4土曜日（夏季を除く）

③作って遊ぼう糸でんわ

ア. 内 容 小学生の親子を対象に民家の縁側で、糸でんわを作って遊ぶ体験を行う。

イ. 開催日 5月5日（木・祝）

④なぞり書きと民家のぬり絵体験

ア. 内 容 小学生の親子を対象に民家の縁側で、「奥の細道」や童謡などのなぞり書き体験や、民家と昔の暮らしを描いたイラストのぬり絵体験を行う。

イ. 開 催 日 令和4年7月16日（土）～8月31日（水）

⑤養蚕体験

ア. 内 容 白川の民家で、小学生の親子を対象に、蚕の飼育の体験を行う。

イ. 開 催 日 令和4年6月中旬～7月中旬

⑥まゆから真綿づくり体験

ア. 内 容 白川の民家で、小学生の親子を対象に、博物館でとれた蚕のまゆから、真綿作りの体験を行う。

イ. 開 催 日 8月20日（土）

⑦竹細工づくり体験

ア. 内 容 小学生の親子を対象に、博物館の竹林に生えている竹から竹細工を作る体験を行う。

イ. 開 催 日 8月21日（日）

⑧機織り体験

ア. 内 容 小学生の親子を対象に、南部の曲家で、機織り体験を行う。

イ. 開 催 日 10月中旬

(5) 伝統文化体験教室

「民家こども囲碁クラブ」に会場を提供し、こどもたちが日本の伝統文化に慣れ親しむ場を提供する。（ライフスポーツ財団助成事業）

(6) 小学校の体験学習

小学3年生社会科「昔の暮らし」・4年生社会科「暮らしの移りかわり」単元と連動し、民家や民具を活用した「みんかむかしの暮らし体験学習」を実施し、地域の学校や教育機関との連携を拡大する。

(7) 中学生の職場体験学習

中学生の職場体験学習を受け入れ、地域の学校との連携を深める。

(8) 大学博物館実習

各大学からの依頼を受けて博物館実習生を受け入れる。

4. 資料収集・提供事業

(1) 資料収集・研究

移築民家や収蔵民具に関する資料を収集するとともに、地域住民と連携し、広く情報を募りながら必要な資料の収集・研究を行う。

(2) 展示民家を提供・活用

各種コンサート、昔話を聞く会、尺八の演奏と解説会、はたおり体験、昔の遊び体験等の開催により、展示民家を活用しながら入館者に公開する催しを行う。一部の催しは地域の文化サークルや団体との共催と

し、民家を会場として提供する。あわせて、「大和十津川の民家」「南部の曲家」、状況に応じて、「越前敦賀の民家」「日向椎葉の民家」「飛騨白川の民家」「摂津能勢の民家」も貸部屋として提供することで、民家により親しんでもらうための活用を図る。また、TV ドラマや映画等、映像作品に関する撮影にも協力する。

(3) 関係書籍・博物館記念物品の頒布

展示資料の理解を深めるため、関係書籍等を頒布する。また、博物館を身近に感じてもらうために博物館記念物品を希望者に頒布する。

5. 人材育成事業

(1) ボランティア活動の促進

ボランティアを募集し、その援助により館の諸活動の充実を期するとともに、地域社会に生涯学習の場を提供する。「勉強会」「交流会」などの機会を設けてボランティアとのコミュニケーションを深め、活動の促進をはかる。

6. 文化財普及・広報事業

(1) 特別行事

服部緑地10月祭への協賛・参加事業として、体験イベント「みんかむかしのあそび体験」を開催する。
開催日 10月15日(土)

(2) 広報リーフレットの作成

季節ごとに「催し案内」を定期的に作成し、関係機関・団体に配布し広報に努める。新規来館者を増やすため、近隣老人施設、写真のサークルなどに「催し案内」を配布する。

(3) インターネットによる広報

展示民家の紹介動画を作成・配信することを通じて来館促進に努める。当館の概要や催し案内をホームページで、桜や紅葉等季節の花々と民家の風景、民家クイズ等をフェイスブックで広報し、PRの充実に努める。

(4) 諸団体との連携

各学校へ校外学習の利用促進の活動を行う。

豊中市広報公聴課、地元ケーブルテレビ、FM ラジオ、ミニコミ紙、阪急電鉄、北大阪急行電鉄、服部緑地公園管理事務所、都市緑化植物園、服部緑地「みどり・文化・地域」を育てる協議会等と連携し、効果的な広報に努める。また、府教職員互助組合等各種団体のメディアを通じての広報の協力を依頼する。NPO 法人シニア自然大学校と連携し、ジュニア自然大学「服部緑地こどもゆめくらぶ」の活動に協力し、博物館の利用促進をはかる。

(5) 資料の作成・頒布

「民家の案内」「民俗」(上・下巻)「旧椎葉家住宅主屋・馬屋保存修理工事報告書」を頒布する。また、小中学生向け案内マップ及び英語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語、イタリア語による案内マ

ップを配付する。

7. 保存修理・施設整備事業

(1) 施設整備

展示民家の維持保存に悪影響を及ぼす樹木の伐採、見学者の安全に配慮した園路・階段などの整備を行う。
竹林においては専門に扱うボランティア活動の支援により実施する。

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑みて、各事業の内容・回数・実施方法を検討し、開催する。
また、館内消毒を心がけるとともに、来館者に向けて手指消毒の呼びかけや検温等も継続して行う。

令和4年度 収支予算書

公益財団法人 大阪府文化財センター

令和4年度
収支(正味財産増減)予算書 内訳表

令和4年度 収支(正味財産増減)予算書 内訳表

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,924,000	0	1,924,000
基本財産運用益計	1,924,000	0	1,924,000
② 特定資産運用益			
特定資産受取利息	6,659,000	0	6,659,000
特定資産運用益計	6,659,000	0	6,659,000
③ 受取会費			
受取会費等振替額	1,000,000	0	1,000,000
受取会費計	1,000,000	0	1,000,000
④ 事業収益			
入館料収益	10,415,000	0	10,415,000
受託事業収益	671,585,000	17,890,000	689,475,000
講座等参加料収益	678,000	0	678,000
書籍販売等収益	3,500,000	0	3,500,000
受託販売手数料収益	150,000	0	150,000
施設利用料等収益	450,000	0	450,000
博物館実習受入収益	200,000	0	200,000
講師料収益	163,000	0	163,000
事業収益計	687,141,000	17,890,000	705,031,000
⑤ 受取補助金等			
受取府運営費補助金	7,068,000	0	7,068,000
受取府管理費補助金	47,000	0	47,000
受取助成金	250,000	0	250,000
受取補助金等振替額	110,000	0	110,000
受取補助金等計	7,475,000	0	7,475,000
⑥ 受取寄附金			
受取寄附金	50,000	0	50,000
受取寄附金等振替額	2,732,000	0	2,732,000
受取寄附金計	2,782,000	0	2,782,000
⑦ 雑収益			
受取利息	3,000	0	3,000
雑収益	150,000	0	150,000
雑収益計	153,000	0	153,000
経常収益計	707,134,000	17,890,000	725,024,000

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	法人会計	合 計
(2) 経常費用			
① 事業費			
役員報酬	2,496,000	0	2,496,000
給料手当	230,448,178	0	230,448,178
賃金	160,898,284	0	160,898,284
期末勤勉手当引当金繰入額	23,837,046	0	23,837,046
退職給付費用	32,247,163	0	32,247,163
福利厚生費	58,306,569	0	58,306,569
交際費	24,000	0	24,000
会議費	16,000	0	16,000
広告費	700,000	0	700,000
旅費交通費	2,264,000	0	2,264,000
通信運搬費	3,933,000	0	3,933,000
棚卸資産売上原価	1,995,000	0	1,995,000
減価償却費	153,830,175	0	153,830,175
図書購入費	400,000	0	400,000
備品購入委託費	100,000	0	100,000
消耗品費	17,702,000	0	17,702,000
光熱水料費	25,430,000	0	25,430,000
修繕費	3,529,000	0	3,529,000
印刷製本費	15,035,000	0	15,035,000
賃借料	13,091,000	0	13,091,000
支払手数料	701,000	0	701,000
保険料	2,243,000	0	2,243,000
報償費	1,738,000	0	1,738,000
租税公課	1,470,000	0	1,470,000
支払負担金	1,096,000	0	1,096,000
委託費	52,088,000	0	52,088,000
委託販売手数料	100,000	0	100,000
分配金費	46,470,000	0	46,470,000
雑費	1,054,000	0	1,054,000
事業費計	853,242,415	0	853,242,415
② 管理費			
役員報酬	0	1,154,000	1,154,000
給料手当	0	9,362,000	9,362,000
賃金	0	729,000	729,000
期末勤勉手当引当金繰入額	0	800,000	800,000
退職給付費用	0	680,000	680,000
福利厚生費	0	1,697,000	1,697,000
交際費	0	6,000	6,000
会議費	0	4,000	4,000
旅費交通費	0	35,000	35,000
通信運搬費	0	136,000	136,000
減価償却費	0	711,000	711,000
消耗品費	0	245,000	245,000
光熱水料費	0	63,000	63,000
修繕費	0	141,000	141,000
印刷製本費	0	117,000	117,000

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	法人会計	合 計
賃借料	0	556,000	556,000
支払手数料	0	100,000	100,000
保険料	0	70,000	70,000
報償費	0	114,000	114,000
租税公課	0	302,000	302,000
支払負担金	0	83,000	83,000
委託費	0	759,000	759,000
雑費	0	26,000	26,000
管理費計	0	17,890,000	17,890,000
経常費用計	853,242,415	17,890,000	871,132,415
当期経常増減額	△ 146,108,415	0	△ 146,108,415
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 146,108,415	0	△ 146,108,415
一般正味財産期首残高	1,028,823,139	0	1,028,823,139
一般正味財産期末残高	882,714,724	0	882,714,724
II 指定正味財産増減の部			
① 特定資産運用益			
特定資産受取利息	1,000	0	1,000
特定資産運用益計	1,000	0	1,000
② 受取会費			
受取賛助会費	1,000,000	0	1,000,000
受取会費計	1,000,000	0	1,000,000
③ 受取寄附金			
募金収益	200,000	0	200,000
受取寄附金計	200,000	0	200,000
④ 一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	△ 3,842,000	0	△ 3,842,000
当期指定正味財産増減額	△ 2,641,000	0	△ 2,641,000
指定正味財産期首残高	205,066,286	0	205,066,286
指定正味財産期末残高	202,425,286	0	202,425,286
III 正味財産期末残高	1,085,140,010	0	1,085,140,010

令和4年度 収支(正味財産増減)予算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(公益目的事業会計)

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,924,000	1,924,000	0
基本財産運用益計	1,924,000	1,924,000	0
② 特定資産運用益			
特定資産受取利息	6,659,000	9,200,000	△ 2,541,000
特定資産運用益計	6,659,000	9,200,000	△ 2,541,000
③ 受取会費			
受取会費等振替額	1,000,000	965,000	35,000
受取会費計	1,000,000	965,000	35,000
④ 事業収益			
入館料収益	10,415,000	9,558,000	857,000
受託事業収益	671,585,000	635,113,000	36,472,000
講座等参加料収益	678,000	488,000	190,000
書籍販売等収益	3,500,000	3,500,000	0
受託販売手数料収益	150,000	150,000	0
施設利用料等収益	450,000	400,000	50,000
博物館実習受入収益	200,000	305,000	△ 105,000
講師料収益	163,000	197,000	△ 34,000
事業収益計	687,141,000	649,711,000	37,430,000
⑤ 受取補助金等			
受取国庫文化芸術補助金	0	3,803,000	△ 3,803,000
受取国庫文化財保存修理補助金	0	25,585,000	△ 25,585,000
受取府運営費補助金	7,068,000	7,068,000	0
受取府管理費補助金	47,000	47,000	0
受取助成金	250,000	0	250,000
受取補助金等振替額	110,000	110,000	0
受取補助金等計	7,475,000	36,613,000	△ 29,138,000
⑥ 受取寄附金			
受取寄附金	50,000	4,565,000	△ 4,515,000
受取寄附金等振替額	2,732,000	2,283,000	449,000
受取寄附金計	2,782,000	6,848,000	△ 4,066,000

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減
⑦ 雑収益			
受取利息	3,000	3,000	0
受取出向料	0	310,000	△ 310,000
雑収益	150,000	223,000	△ 73,000
雑収益計	153,000	536,000	△ 383,000
経常収益計	707,134,000	705,797,000	1,337,000
(2) 経常費用			
① 事業費			
役員報酬	2,496,000	2,496,000	0
給料手当	230,448,178	233,378,496	△ 2,930,318
賃金	160,898,284	151,624,106	9,274,178
期末勤勉手当引当金繰入額	23,837,046	25,884,046	△ 2,047,000
退職給付費用	32,247,163	21,397,722	10,849,441
福利厚生費	58,306,569	57,525,459	781,110
交際費	24,000	24,000	0
会議費	16,000	0	16,000
広告費	700,000	985,000	△ 285,000
旅費交通費	2,264,000	1,002,000	1,262,000
通信運搬費	3,933,000	3,716,000	217,000
棚卸資産売上原価	1,995,000	1,995,000	0
減価償却費	153,830,175	153,720,175	110,000
図書購入費	400,000	304,000	96,000
備品購入委託費	100,000	4,346,000	△ 4,246,000
消耗品費	17,702,000	11,255,000	6,447,000
光熱水料費	25,430,000	28,058,000	△ 2,628,000
修繕費	3,529,000	3,907,000	△ 378,000
印刷製本費	15,035,000	10,814,000	4,221,000
賃借料	13,091,000	11,831,000	1,260,000
支払手数料	701,000	1,146,000	△ 445,000
保険料	2,243,000	1,564,000	679,000
報償費	1,738,000	774,000	964,000
租税公課	1,470,000	1,441,000	29,000
支払負担金	1,096,000	840,000	256,000
委託費	52,088,000	55,578,000	△ 3,490,000
工事請負費	0	42,787,000	△ 42,787,000
委託販売手数料	100,000	100,000	0
分配金費	46,470,000	50,925,000	△ 4,455,000
雑費	1,054,000	310,000	744,000
事業費計	853,242,415	879,728,004	△ 26,485,589
経常費用計	853,242,415	879,728,004	△ 26,485,589
当期経常増減額	△ 146,108,415	△ 173,931,004	27,822,589
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減
(2) 経常外費用			
① 固定資産除却損			
什器備品除却損	0	21,776	△ 21,776
固定資産除却損計	0	21,776	△ 21,776
経常外費用計	0	21,776	△ 21,776
当期経常外増減額	0	△ 21,776	21,776
当期一般正味財産増減額	△ 146,108,415	△ 173,952,780	27,844,365
一般正味財産期首残高	1,028,823,139	1,203,291,919	△ 174,468,780
一般正味財産期末残高	882,714,724	1,029,339,139	△ 146,624,415
II 指定正味財産増減の部			
① 特定資産運用益			
特定資産受取利息	1,000	1,000	0
特定資産運用益計	1,000	1,000	0
② 受取会費			
受取賛助会費	1,000,000	965,000	35,000
受取会費計	1,000,000	965,000	35,000
③ 受取寄附金			
募金収益	200,000	130,000	70,000
受取寄附金計	200,000	130,000	70,000
④ 一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	△ 3,842,000	△ 3,358,000	△ 484,000
当期指定正味財産増減額	△ 2,641,000	△ 2,262,000	△ 379,000
指定正味財産期首残高	205,066,286	207,328,286	△ 2,262,000
指定正味財産期末残高	202,425,286	205,066,286	△ 2,641,000
III 正味財産期末残高	1,085,140,010	1,234,405,425	△ 149,265,415

令和4年度 収支(正味財産増減)予算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(法人会計)

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 事業収益			
受託事業収益	17,890,000	18,449,000	△ 559,000
事業収益計	17,890,000	18,449,000	△ 559,000
経常収益計	17,890,000	18,449,000	△ 559,000
(2) 経常費用			
① 管理費			
役員報酬	1,154,000	1,144,000	10,000
給料手当	9,362,000	9,602,000	△ 240,000
賃金	729,000	707,000	22,000
期末勤勉手当引当金繰入額	800,000	1,058,000	△ 258,000
退職給付費用	680,000	1,116,000	△ 436,000
福利厚生費	1,697,000	1,702,000	△ 5,000
交際費	6,000	6,000	0
会議費	4,000	0	4,000
旅費交通費	35,000	25,000	10,000
通信運搬費	136,000	150,000	△ 14,000
減価償却費	711,000	677,000	34,000
消耗品費	245,000	144,000	101,000
光熱水料費	63,000	62,000	1,000
修繕費	141,000	117,000	24,000
印刷製本費	117,000	92,000	25,000
賃借料	556,000	574,000	△ 18,000
支払手数料	100,000	100,000	0
保険料	70,000	69,000	1,000
報償費	114,000	114,000	0
租税公課	302,000	281,000	21,000
支払負担金	83,000	5,000	78,000
委託費	759,000	698,000	61,000
雑費	26,000	6,000	20,000
管理費計	17,890,000	18,449,000	△ 559,000
経常費用計	17,890,000	18,449,000	△ 559,000
当期経常増減額	0	0	0

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計		0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計		0	0
当期経常外増減額		0	0
当期一般正味財産増減額		0	0
一般正味財産期首残高		0	0
一般正味財産期末残高		0	0
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額		0	0
指定正味財産期首残高		0	0
指定正味財産期末残高		0	0
III 正味財産期末残高		0	0

令和4年度
資金収支予算書 内訳表

令和4年度 資金収支予算書 内訳表

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位 千円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	1,924	0	0	1,924
基本財産運用収入計	1,924	0	0	1,924
② 特定資産運用収入				
特定資産利息収入	6,660	0	0	6,660
特定資産運用収入計	6,660	0	0	6,660
③ 会費収入				
賛助会費収入	1,000	0	0	1,000
会費収入計	1,000	0	0	1,000
④ 事業収入				
入館料収入	10,415	0	0	10,415
受託事業収入	671,585	17,890	0	689,475
講座等参加料収入	678	0	0	678
書籍販売等収入	3,500	0	0	3,500
受託販売手数料収入	150	0	0	150
施設利用料等収入	450	0	0	450
博物館実習受入収入	200	0	0	200
講師料収入	163	0	0	163
事業収入計	687,141	17,890	0	705,031
⑤ 補助金等収入				
府運営費補助金収入	7,068	0	0	7,068
府管理費補助金収入	47	0	0	47
助成金収入	250	0	0	250
補助金等収入計	7,365	0	0	7,365
⑥ 寄附金収入				
寄附金収入	50	0	0	50
募金収入	200	0	0	200
寄附金収入計	250	0	0	250
⑦ 雑収入				
受取利息収入	3	0	0	3
雑収入	150	0	0	150
雑収入計	153	0	0	153
⑧ 他会計からの繰入金収入				
埋蔵文化財調査事業会計からの繰入金収入	0	3,091	△ 3,091	0
他会計からの繰入金収入計	0	3,091	△ 3,091	0
事業活動収入計	704,493	20,981	△ 3,091	722,383
2. 事業活動支出				
① 事業費支出				
役員報酬支出	2,496	0	0	2,496
給料手当支出	250,708	0	0	250,708
貸金支出	163,055	0	0	163,055
退職給付支出	16,898	0	0	16,898
福利厚生費支出	61,797	0	0	61,797

(単位 千円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計
交際費支出	24	0	0	24
会議費支出	16	0	0	16
広告費支出	700	0	0	700
旅費交通費支出	2,264	0	0	2,264
通信運搬費支出	3,933	0	0	3,933
棚卸資産購入費支出	1,500	0	0	1,500
図書購入費支出	400	0	0	400
備品購入委託費支出	100	0	0	100
消耗品費支出	17,702	0	0	17,702
光熱水料費支出	25,430	0	0	25,430
修繕費支出	3,529	0	0	3,529
印刷製本費支出	15,035	0	0	15,035
賃借料支出	13,091	0	0	13,091
支払手数料支出	701	0	0	701
保険料支出	2,243	0	0	2,243
報償費支出	1,738	0	0	1,738
租税公課支出	1,470	0	0	1,470
負担金支出	1,096	0	0	1,096
委託費支出	52,088	0	0	52,088
分配金支出	46,470	0	0	46,470
委託販売手数料支出	100	0	0	100
雑支出	1,054	0	0	1,054
事業費支出計	685,638	0	0	685,638
② 管理費支出				
役員報酬支出	0	1,154	0	1,154
給料手当支出	0	10,260	0	10,260
賃金支出	0	744	0	744
退職給付支出	0	4,224	0	4,224
福利厚生費支出	0	1,842	0	1,842
交際費支出	0	6	0	6
会議費支出	0	4	0	4
旅費交通費支出	0	35	0	35
通信運搬費支出	0	136	0	136
消耗品費支出	0	245	0	245
光熱水料費支出	0	63	0	63
修繕費支出	0	141	0	141
印刷製本費支出	0	117	0	117
賃借料支出	0	556	0	556
支払手数料支出	0	100	0	100
保険料支出	0	70	0	70
報償費支出	0	114	0	114
租税公課支出	0	302	0	302
負担金支出	0	83	0	83
委託費支出	0	759	0	759
雑支出	0	26	0	26
管理費支出計	0	20,981	0	20,981
③ 他会計への繰入金支出				
法人会計への繰入金支出	3,091	0	△ 3,091	0
他会計への繰入金支出計	3,091	0	△ 3,091	0
事業活動支出計	688,729	20,981	△ 3,091	706,619
事業活動収支差額	15,764	0	0	15,764

(単位 千円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入				
退職給付引当資産取崩収入	21,122	0	0	21,122
減価償却引当資産取崩収入	6,800	0	0	6,800
財政調整引当資産取崩収入	11,638	0	0	11,638
修繕積立資産取崩収入	439	0	0	439
記念事業積立資産取崩収入	934	0	0	934
弥生記念事業積立資産取崩収入	353	0	0	353
文化財普及基金取崩収入	250	0	0	250
特定資産取崩収入計	41,536	0	0	41,536
投資活動収入計	41,536	0	0	41,536
2. 投資活動支出				
① 特定資産取得支出				
退職給付引当資産取得支出	32,587	0	0	32,587
減価償却引当資産取得支出	16,712	0	0	16,712
大規模改修積立資産取得支出	1,000	0	0	1,000
修繕積立資産取得支出	200	0	0	200
文化財普及基金取得支出	1	0	0	1
特定資産取得支出計	50,500	0	0	50,500
② 固定資産取得支出				
什器備品購入支出	6,800	0	0	6,800
固定資産取得支出計	6,800	0	0	6,800
③ 貸付金支出				
日本民家集落博物館事業会計貸付金支出	9,021	0	0	9,021
貸付金支出計	9,021	0	0	9,021
投資活動支出計	66,321	0	0	66,321
投資活動収支差額	△ 24,785	0	0	△ 24,785
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
① 借入金収入				
文化財資料活用事業会計借入金収入	9,021	0	0	9,021
借入金収入計	9,021	0	0	9,021
財務活動収入計	9,021	0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	0
財務活動収支差額	9,021	0	0	0
Ⅳ 予備費支出				
当期収支差額	0	0	0	0
前期繰越収支差額	910	0	0	910
次期繰越収支差額	910	0	0	910

令和4年度 資金収支予算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(公益目的事業会計)

(単位 千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 基本財産運用収入			
基本財産利息収入	1,924	1,924	0
基本財産運用収入計	1,924	1,924	0
② 特定資産運用収入			
特定資産利息収入	6,660	9,201	△ 2,541
特定資産運用収入計	6,660	9,201	△ 2,541
③ 会費収入			
賛助会費収入	1,000	965	35
会費収入計	1,000	965	35
④ 事業収入			
入館料収入	10,415	9,558	857
受託事業収入	671,585	635,113	36,472
講座等参加料収入	678	488	190
書籍販売等収入	3,500	3,500	0
受託販売手数料収入	150	150	0
施設利用料等収入	450	400	50
博物館実習受入収入	200	305	△ 105
講師料収入	163	197	△ 34
事業収入計	687,141	649,711	37,430
⑤ 補助金等収入			
国庫文化芸術補助金収入	0	3,803	△ 3,803
国庫文化財保存修理補助金収入	0	25,585	△ 25,585
府運営費補助金収入	7,068	7,068	0
府管理費補助金収入	47	47	0
助成金収入	250	0	250
補助金等収入計	7,365	36,503	△ 29,138
⑥ 寄附金収入			
寄附金収入	50	4,565	△ 4,515
募金収入	200	130	70
寄附金収入計	250	4,695	△ 4,445
⑦ 雑収入			
受取利息収入	3	3	0
受取出向料収入	0	310	△ 310
雑収入	150	223	△ 73
雑収入計	153	536	△ 383

(単位 千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減
⑧ 他会計からの繰入金収入			
法人会計からの繰入金収入	0	2,063	△ 2,063
他会計からの繰入金収入計	0	2,063	△ 2,063
事業活動収入計	704,493	705,598	△ 1,105
2. 事業活動支出			
① 事業費支出			
役員報酬支出	2,496	2,496	0
給料手当支出	250,708	255,669	△ 4,961
賃金支出	163,055	153,794	9,261
退職給付支出	16,898	63,522	△ 46,624
福利厚生費支出	61,797	61,375	422
交際費支出	24	24	0
会議費支出	16	0	16
広告費支出	700	985	△ 285
旅費交通費支出	2,264	1,002	1,262
通信運搬費支出	3,933	3,716	217
棚卸資産購入費支出	1,500	1,400	100
図書購入費支出	400	304	96
備品購入委託費支出	100	4,346	△ 4,246
消耗品費支出	17,702	11,255	6,447
光熱水料費支出	25,430	28,058	△ 2,628
修繕費支出	3,529	3,907	△ 378
印刷製本費支出	15,035	10,814	4,221
賃借料支出	13,091	11,831	1,260
支払手数料支出	701	1,146	△ 445
保険料支出	2,243	1,564	679
報償費支出	1,738	774	964
租税公課支出	1,470	1,441	29
負担金支出	1,096	840	256
委託費支出	52,088	55,578	△ 3,490
分配金支出	46,470	50,925	△ 4,455
工事請負費支出	0	42,787	△ 42,787
委託販売手数料支出	100	100	0
雑支出	1,054	310	744
事業費支出計	685,638	769,963	△ 84,325
② 他会計への繰入金収入			
法人会計への繰入金収入	3,091	0	3,091
他会計への繰入金収入計	3,091	0	3,091
事業活動支出計	688,729	769,963	△ 81,234
事業活動収支差額	15,764	△ 64,365	80,129
Ⅱ 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
① 特定資産取崩収入			
退職給付引当資産取崩収入	21,122	63,522	△ 42,400
減価償却引当資産取崩収入	6,800	844	5,956
固定資産購入等積立資産取崩収入	0	108	△ 108
財政調整引当資産取崩収入	11,638	1,565	10,073

(単位 千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減
大規模改修積立資産取崩収入	0	17,127	△ 17,127
修繕積立資産取崩収入	439	717	△ 278
記念事業積立資産取崩収入	934	0	934
弥生記念事業積立資産取崩収入	353	0	353
文化財普及基金取崩収入	250	510	△ 260
特定資産取崩収入計	41,536	84,393	△ 42,857
② 敷金・保証金戻り収入			
保証金戻り収入	0	10	△ 10
敷金・保証金戻り収入計	0	10	△ 10
投資活動収入計	41,536	84,403	△ 42,867
2. 投資活動支出			
① 特定資産取得支出			
退職給付引当資産取得支出	32,587	22,514	10,073
減価償却引当資産取得支出	16,712	17,205	△ 493
大規模改修積立資産取得支出	1,000	965	35
修繕積立資産取得支出	200	130	70
文化財普及基金取得支出	1	1	0
特定資産取得支出計	50,500	40,815	9,685
② 固定資産取得支出			
什器備品購入支出	6,800	844	5,956
固定資産取得支出計	6,800	844	5,956
③ 敷金・保証金支出			
保証金支出	0	22	△ 22
敷金・保証金支出計	0	22	△ 22
④ 貸付金支出			
日本民家集落博物館事業会計貸付金支出	9,021	0	9,021
貸付金支出計	9,021	0	9,021
投資活動支出計	66,321	41,681	24,640
投資活動収支差額	△ 24,785	42,722	△ 67,507
Ⅲ 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
① 借入金収入			
文化財資料活用事業会計借入金収入	9,021	0	9,021
借入金収入計	9,021	0	9,021
財務活動収入計	9,021	0	9,021
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	9,021	0	9,021
Ⅳ 予備費支出	0	0	0
当期収支差額	0	△ 21,643	21,643
前期繰越収支差額	910	22,553	△ 21,643
次期繰越収支差額	910	910	0

令和4年度 資金収支予算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(法人会計)

(単位 千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 事業収入			
受託事業収入	17,890	18,449	△ 559
事業収入計	17,890	18,449	△ 559
② 他会計からの繰入金収入			
埋蔵文化財調査事業会計からの繰入金収入	3,091	0	3,091
他会計からの繰入金収入計	3,091	0	3,091
事業活動収入計	20,981	18,449	2,532
2. 事業活動支出			
① 管理費支出			
役員報酬支出	1,154	1,144	10
給料手当支出	10,260	10,274	△ 14
賃金支出	744	715	29
退職給付支出	4,224	0	4,224
福利厚生費支出	1,842	1,810	32
交際費支出	6	6	0
会議費支出	4	0	4
旅費交通費支出	35	25	10
通信運搬費支出	136	150	△ 14
消耗品費支出	245	144	101
光熱水料費支出	63	62	1
修繕費支出	141	117	24
印刷製本費支出	117	92	25
賃借料支出	556	574	△ 18
支払手数料支出	100	100	0
保険料支出	70	69	1
報償費支出	114	114	0
租税公課支出	302	281	21
負担金支出	83	5	78
委託費支出	759	698	61
雑支出	26	6	20
管理費支出計	20,981	16,386	4,595
② 他会計への繰入金支出			
埋蔵文化財調査事業会計への繰入金支出	0	2,063	△ 2,063
他会計への繰入金支出計	0	2,063	△ 2,063
事業活動支出計	20,981	18,449	2,532
事業活動収支差額	0	0	0
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計		0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計		0	0
投資活動収支差額	0	0	0

(単位 千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減
Ⅲ 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計		0	0
財務活動収支差額	0	0	0
Ⅳ 予備費支出		0	0
当期収支差額	0	0	0
前期繰越収支差額	0	0	0
次期繰越収支差額	0	0	0